輝く少女へ

新入生のみなさん、本日はご入学おめでとうございます。学長の郡司です。

今日は4月1日、新しい年度の始まりですが、みなさんは大変なときに大学に入学することになりました。先月11日に東北地方でおこった巨大地震のため、直接的な被害のなかった地方も含めて、全国的に不安な気持でこの3週間を過ごしてきています。東北だけでなく、東京でも多くの大学で入学式を取りやめたり、新学期の開始をずっと遅らせたりしている中で、予定通りに新学年を迎えることができた私たちは幸せであると思わざるを得ません。

ここであらためて、犠牲となった方々のご冥福を祈り、被災にあっている方々へお見舞を申し上げたいと思います。

自粛と萎縮

入学式に限らず、お花見など、さまざまなイベントが東日本では中止になっています。計画停電をしているような状況で電気の確保ができないとか、電車の間引き運転で人が集まりにくいとか、そういう実際的な理由もあるかもしれません。しかし、多くの場合、「このような非常時に」という自粛モード、「不謹慎」と批判されることを恐れる気持、このような理由で必要以上に萎縮してしまっているのかもしれません。

気持が萎縮すると、人は不安感をもつようになります。ごく近い未来も予測できず、とりあえず、今できることをやってしまおう、そういう心理で、水や食料品、生活用品の買い占めに走るのでしょう。問題は、このような不安感が、理不尽なことに、西日本にも広まってしまっていることです。関西のスーパーでもペットボトルの水が売り切れたりしています。

私たちにできること

このようなときに私たちにできることは、何でしょうか。いろいろな形があり得ると思います。

今日、この式をはじめるにあたって、みなで捧げた「祈り」もその一つでしょう。現地に駆け付けて、迷惑にならないように気を付けながらボランティア活動をすることも考えられます。義捐金という形で被災地の支援に協力するということも、もちろん立派なことです。

他にもいろいろな関わり方があり得ると思います。16年前には、皆さんの多くは、被災者という形で震災を経験しました。今は、被災者から支援者へという形で役割を交替するときです。

大学というところは、勉強をする場であるのはもちろんですが、勉強をする最後の機会であり、社会に出る一歩手前という微妙な位置になります。現実の社会から要求される様々な実際的な制約からは、まだ、ある程度自由です。その自由を生かして学生生活を十分に楽しむとともに、大学生でいる間にしかできないことに力を注いで下さい。そのとき忘れてほしくないのは、自分が生かされているのは、人を愛し、自分の行動を通して社会に貢献するためなのだということです。

明日に架ける橋

ここでこのようなときにふさわしい歌を紹介したいと思います。40年前にできた歌ですが、有名なので皆さんの年代でも知っている人が多いのではないかと思います。Simon & Garfunkel

の「明日に架ける橋」という曲です。

原題は Bridge over Troubled Water で、日本語の題で「明日」という綺麗な言葉になっている部分に対応する、troubled water というのは、「荒れる水」、この場合は、荒海とか氾濫する川のことで、そこに架ける橋になってあなたを渡らせてあげようということです。

内容は、部分的に意訳してみると、

私は、あなたが疲れているとき
惨めに感じているとき
涙が止まらないとき
拭きとってあげよう

そばにいて
あなたが辛いとき
友だちが見つからないときには
荒海に架ける橋のように
私の身を横たえてあげよう

あなたが打ちのめされて
路頭に迷っているとき
夜がとても辛いとき
私が慰めてあげよう

という感じのものです。

これは、言うまでもなく、友情、それも献身的な友情の歌です。本当に荒海に身を横たえてしまうと、自分は犠牲になってしまいますが、あくまでも喩えとして、相手によりそって、力付けてあげよう、ということでしょう。

二重の意味

この歌の内容は二重の意味で今の私たちにふさわしいものだと思います。この歌は「私」が「あなた」に語りかけるものになっています。辛い立場にあるのが「あなた」で、それに対して力となってあげよう、というのが「私」です。

この「私」を私たち西日本で暮らす人間とすると、「あなた」は東日本で辛い思いをしている人たちです。もちろん、「橋になる」という比喩をどのように実現するかは、よく考えなくてはいけませんが、大学生となった今、先に述べたように、いろいろな形の「橋」になることができると思います。大学としても、そういう皆さんの気持をできるだけ応援して支えていきたいと思います。

もう一つの解釈は「あなた」が今日入学した皆さんであるという考え方です。その場合、「私」は、私たち大学に勤める人間や先輩の学生など、皆さんを今日ここにお迎えした人間ということになります。

もちろん、大学が「辛い」ところだと言っているわけではありません。勉強は、ちょっと大変なときがあるかもしれませんが、「辛い」というほどのものではありません。

銀色の少女

この第 2 の解釈には、歌の後半がより適切になります。「明日に架ける橋」には、最後に、後から付け加えられたとされる部分があります。その部分は、

Silver Girl, 銀色の少女よ
航海に出なさい

と始まります。そして、

あなたが輝く日が来た
夢がみんな実現するときが

と続きます。

（一説には、この Silver Girl というのは、作詞した Paul Simon のガールフレンドで、白髪が出てきたので皮肉として作ったとか言われますが、それはともかく、）

この意味でも、この歌を皆さんに捧げたいと思います。今日は、大学生となった皆さんが輝く日です。

歌の最後は、

夢が輝いている
友だちが必要なときは
いつでもすぐ後ろを航海しているよ
荒海に架ける橋のように
あなたの気持を柔らげてあげよう

となります。

銀色の少女の皆さん、自分で自分の航路を作って船出して下さい。

保護者の方々へ

最後に、ご臨席の保護者の皆様、お子さんたちのご入学、本当におめでとうございます。大学の教育も保護者の皆様の支えがあってこそなりたつものです。そのためにも、ぜひ、われわれと一緒に、お子さんの船出の後から、そっとついて行ってあげて下さい。もしかしたら、こちらを振りむいてくれることもない 4 年間になるかもしれませんが、それはそれで、お子さんが自立して生きていけるようになったのだと思って安心して下さい。

今日という日を、未来を向いた明るい日ととらえたいと思います。